# 多田良雄の42.195

Vol.22

今日は、4月23日なのですが、ここのところ雨続きで現場の段取りが乱れています。多少の雨は、工程に含んで予定を立てるのですが、こうも連続して降り続けると、後手後手になりがちです。お客様にも心配をかけっぱなしで申し訳ない気持ちでいっぱいです。皆様は、いかがおすごしでしょうか。

今回は、「自分はいったい何のために生まれてきたのだろう?」というテーマで書かせていただきます。

建築に携わらせていただき、今年で20年になります。建築の中でも特にこのリフォーム業界は、まだまだ遅れているように思います。逆に、工夫、改良、改善する余地が沢山残されている素晴らしい業界だとも思います。納期も工程も職域も見積も単価もコストも技術もサービスも何もかもが、他の業界の平均値と比べてみても見劣りするように感じます。

主に、これらの事から、ここ5、6年、リフォームというマーケットの拡大にブレーキをかけているように感じます。そこには、まだまだ金額が高い、満足度が低い、価格が不明瞭といったお客様の声や想いが有るのかもしれません。「リフォーム価格は、「工事施工費+材料商品+サービスと諸経費」の総額であり、非常に複雑です。お客様にも非常にわかりづらい。又受注生産、人の手で一つ一つ作り上げていくものなので、仕上げにもバラつきが出ます。お客様満足度合いに格差が出やすい仕組み、構造になっていると思います。

ここで芳村思風先生の詩を紹介させて頂きます。

《人生において生きるとは、ただ単に生き永らえる事ではない。人間において生きるとは、何のためにこの命を使うか、この命をどう生かすかということである。
命を生かすとは、何かに命をかけるという事である。だから生きるとは命をかけるという事だ。
命の最高のよろこびは、命をかけても惜しくない程の対象と出会うことにある。
その時こそ、命は最も充実した生のよろこびを味わい、激しくも美しく燃え上がるのである。
君は何に命をかけるか。君は何のためになら死ぬことができるか。この問いに答えることが生きるということであり、この問いに答えることが、人生である》

今は、ただただ、リフォームをしていただき、もっともっと広く沢山の人たちに喜び、幸せになっていただくために、工夫、改良、改善を重ね、リフォームという商品を磨きこんで行きたいと思っています。この詩を読み返すと、「リフォーム=自分そのもの」であり、リフォームに打ち込むことで地域のお客様、働く職人さん、会社の皆にとっても、自分にとっても意義の有る毎日が、おくれると信じています。

命をかけるというと大袈裟に聞こえるかもしれませんが、みんなそれぞれの立場で、日々命を削って一生懸命生きているのであって、真実に他ならない事だと思います。だから今自分は、「したいことをして生きている」「このために生まれてきたんだ」と真底思える様になってきています。そんな素晴らしい業界で働かせてもらっている事に改めて感謝させて頂きます。

ありがとうございます。　平成二十二年 四月吉日　多田良雄